

# 2020 こうち総文 ～県内生徒が大会運営の主人公～

第44回全国高等学校総合文化祭高知県大会(2020 こうち総文)は、平成32年7月31日～8月6日に高知県で開催する「文化部のインターハイ」です。演劇・合唱・書道・放送など23部門の全国大会が県内各地で開かれ、全国約3,000校から約2万人の参加者が高知を訪れます。また、競技等の観覧者は約10万人が見込まれています。

この大会の企画・運営・おもてなし等は県内生徒が中心に取り組み、県内の高等学校・特別支援学校も一校一役で参画します。今回、その取組の要となる高知県実行委員会が6月8日に設立されましたので、県内高等学校の新聞部有志の方々に取材してもらいました。

## 始動! 「2020 こうち総文」



6月8日(金)に高知県民文化ホールで第44回全国高等学校総合文化祭に向けた高知県実行委員会(会長・伊藤博明県教育長)が設立され、第1回会議が行われた。土佐女子中学・高等学校放送部の司会進行で、事業計画や予算が決定された。

大会の基本方針は『**「上げよう・魅せよう・繋げよう」**』。高知の食・自然・歴史・文化の魅力を知ってもらったり、高知のあたたかさを感じてもらったりすることにも力を入れる。2020こうち総文に向けて、今走り出した。(山田高校・村山大和)

大会公募作品入賞者の表彰のほか、高知中学・高等学校吹奏楽部のマーチング演奏や村高等学校詩吟愛好会の詩吟

オープニングでは、高知中学・高校の吹奏楽部がマーチング演奏を披露。ホール内を高知学園のサウンドに染め、会場を圧倒した。

今回の司会進行を務めた土佐女子中学・高校放送部の堀田さんと戸梶さんは本番前、「誰もができる経験ではないので、緊張もするけど、落ち着いて頑張りたい。」と意気込んでいた。本番では、緊張した様子が全くなく、落ち着いて進行されていた。

受付では、小津高校書道部の岡田さん、和田さん、岸田さん、中内さんたちが高知県産の柚子を使った水を配るなどして

### 「上げよう・魅せよう・繋げよう」のもとに高知県実行委員会開催

## 2020 こうち総文新聞

【取材・編集】  
県内高校  
新聞部有志

### ごあいさついただきました!

開催市町村代表 岡崎 誠也 高知市長

「こうち総文祭」は、全国より約2万人参加予定。何気ない日常に文化を見出し、高知の夏を存分に満喫してもらいたい。そのために、各機関が連携を深めおもてなしの心で準備を進めていきたい。

名誉副会長 小田島 正明 (公社) 全国高等学校文化連盟会長

歴史・文化・豊かな土佐の地で、地域を越え、国を越えた交流と今後の生き方に自信と誇りを持つ大会になるよう、各分野で連携をとりながら準備に努めていきたい。

名誉会長 尾崎 正直 高知県知事

この大会が全国のハイレベルな文化部の代表が集い、技を磨くとともに刺激しあい友情を深める場となることを期待する。高知の文化芸術活動をさらに高めていけるような実りあるものにしたい。

(追手前高校 目良隆之介・橋本彩央・瀧下一平)

詩吟を披露してくれたのは、中村高校詩吟愛好会の江口順利愛さん、山崎愛未さん、土居弥生さん。三人は美しく吟じ、会場を魅了した。その練習方法は、「先生のお手本をスマホに録音して聞くことを繰り返す。さらに先生にアドバイスをもらう。」これを基本に練習しているのだそう。けれど、詩吟ならではの高い声を出そうとすると、「地



岩小路) 出迎えていた。ロビーには同じ書道部の岡豊高校の最優秀賞作品が飾られており、ライバル校の質の高い作品に「私たちが今年の総文祭に向けて、練習をして質を高めあっていた。」と意欲を燃やしていた。(高知商業高校 矢野天雪・岡本稜季・黒

声が低いので裏返ってしまう」という。「多くの人の前で詩を吟じることは初めてだったが、3人で助け合いながらできた」と、「自己採点では98点。完璧に近い出来栄。」と胸をはった。(高知小津高校 高橋歩乃・豊島千加・西川裕香)